リレー放談（第 4 話）　『定年退職を迎えて思うこと』

日本医科大学付属病院　同期 M 組大湾技師長より、リレーを受け取りました。

大久保 卓史　第 13 期（M 組）東邦大学医療センター大森病院　中央放射線部統括次長を 2022 年 3 月に定年退職し、現在は嘱託として勤務しておりますが、来年度は新しい道に進もうと考えています。

東邦大学は本院機能を持つ大森病院が中核病院となり、大橋病院、佐倉病院、羽田空港の国内線、国際線にクリニックがあります。

38 年間東邦大学にて働き、中央放射線部も大きくなり 59 名の技師にて各部門を稼働させています。20 年程前から新卒採用者は大卒以上と内部規定を変更したため、それまでは東京電子卒業生が多数おりましたが現在は 5 名のみとなってしまいました。未来ある学生の為に、臨床実習は積極的に専門学校も受け入れています。私が東京電子に在籍していた頃には、所沢にグランドを買い、将来は大学に移行するとの話しでしたが、残念ながら今現在も大学にはなっていなく、残念でなりません。

診療放射線技師の仕事もこの数十年で劇的に高度化して、専門性が高くなってきました。私の入職時の時代とは大違いで多様化しています。これにより各分野の専門技師（認定）も増えてきました。私は救急の認定に興味を持ち日本救急撮影技師を目指す過程で、東京地区委員を任命され手伝いをする様になりました。2011 年には首都圏で救急に強い思いを持つ仲間と出会い、Tokyo ER Meeting を立ち上げ代表世話人として、放射線技師のスキルアップに少しでも役に立てる様な研究会を目指してきました。対面では 200 名程で勉強会を開催し、COVID-19 が蔓延してからは Zoom にて 800 名弱の参加をしてもらえる研究会となりました。

思えば私の 61 年は診療放射線技師として働き、仲間と共に勉強をして大変有意義な人生を送る事が出来ました。この充実した時間の根本は東京電子にて学んだ 3 年間に出来上がったと思っています。

これからも東京電子の卒業生が未来へ繋がる技師になる事を願っています。